

## 平成 28 年度事業報告書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 パシフィカ・ルネサンス

### 1. 平成 28 年度の活動の概要

NPO 法人設立から 3 年目となり、ミクロネシア連邦ポーンペイ州における現地での活動とオセアニア島嶼国の人々を対象としたインターネットでの情報提供や協働を中心に継続的に行った。特にオセアニアの伝統文化・歴史・文化遺産に関する記録・調査・教育事業とオセアニアの関連機関・団体への技術協力事業に力を入れて活動した。当 NPO の本来の目的たる事業は順調に行われており、広報活動も少しずつ実を結びつつあるが、NPO の厳しい財政状況は変わらず、今後継続的な活動を行うために更なる努力が必要である。当 NPO はまだ財政・人力的に十分とは言えないため、ミッションに賛同するオセアニアの団体や個人との連携の道を探っており、私達の活動の他地域への拡大や波及効果を狙っている。

### 2. 事業の成果

#### (1) 特定非営利活動に掛かる事業

##### ①オセアニアの伝統文化・歴史・文化遺産に関する記録・調査・教育事業

##### ◆ポーンペイ州での口承伝承の記録

今年度も、長岡拓也代表理事はポーンペイ州の島々において消滅しつつある口承伝承を老人からビデオにより記録し、その語りの動画をインターネットで配信するプロジェクトを行うため、平成 28 年 11 月から平成 29 年 3 月末までポーンペイ島に滞在した。期間中、引き続きポーンペイ本島在住の離島の住民からの記録を行うとともに（図 1）、ポーンペイ州の文化行政を担当する同州歴史保護局と協働でポーンペイ島での記録を始めた（図 2）。今年度は、このプロジェクトを実施するために、KDDI 財団より社会的文化的諸活動助成をいただいた。

記録した語りの動画は、ポーンペイとともに米国在住（ミクロネシア連邦全人口の 3 分の 1 が出稼ぎに出ている）のポーンペイ人が見ることができるように、NPO のユーチューブ・チャンネル（<https://www.youtube.com/channel/UCnmyAfrAD0u4MpUF9jLgJag>）で公開している。

収支実績：収益712,000円、費用1,742,411円



図 1. カピングマランギ人の伝統首長への聞き取り



図 2. ポーンペイ人への聞き取り

#### ◆インターネットを利用した伝統文化・歴史に関する情報の発信

当 NPO は、現在、フェイスブックとユーチューブを利用して、NPO 活動やオセアニアの文化や歴史に関する情報を発信している。

平成 26 年 5 月に開設した NPO のフェイスブック・ページ（以下「FB ページ」、<http://www.facebook.com/PasifikaRenaissance>）では、毎週 1 回程度オセアニアの伝統文化・歴史に関する情報や NPO の活動について英語と日本語で発信している。事業年度末の段階で 7,314 人（昨年度末 5,264 人）がファンとして登録しており、昨年度からのファン数の増加率は 38.9%（昨年度 96.6%）となっている（図 3）。このファン数は、オセアニア地域の文化的分野で活動している組織の中では有数の数となっている。内訳としては、多くのミクロネシア人が出稼ぎに行っている米国・米領グアムで 52%（前年度末 52%）、ミクロネシア連邦が 4%（6%）、日本が 5%（6%）、その他オセアニア諸国で 26%（24%）となっている（図 4）。

またこの FB ページへの投稿より広い内容を投稿したり、オセアニアの人々自身による情報・意見交換への参加を促進したりできるように、平成 27 年 3 月に開設したフェイスブック・グループ「Pasifika Renaissance」（<https://www.facebook.com/groups/1424775454486112/>）も、事業年度末で 3,040 人（昨年度末 2,856 人）がメンバーとして登録しており、活発に活用されている。

また同 7 月に日本人向けのオセアニア関係の情報交換の場として開設した「オセアニアの島が好き！」にも 166 人が参加している。



図 4. 今年度の FB ページのファン数の増加

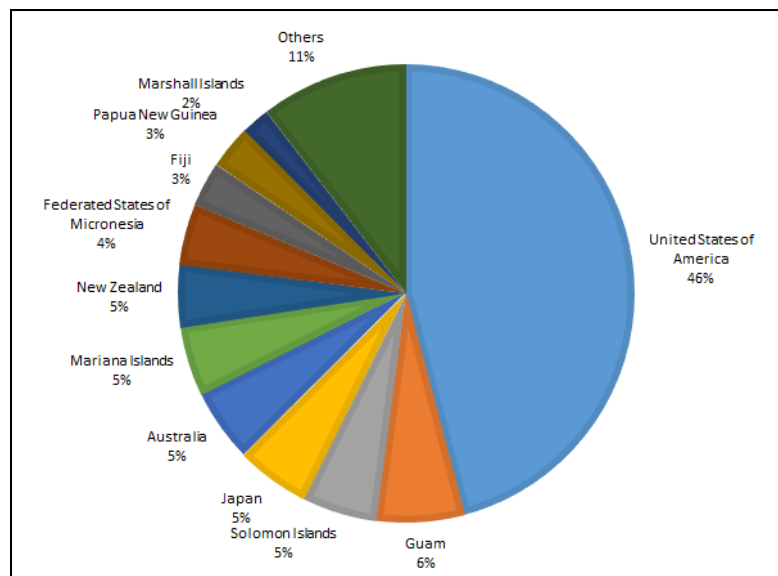


図 5. NPO の FB ページのファンの国・地域別内訳

ユーチューブ・チャンネルでは、ミクロネシア（主にポーンペイ）で撮影された文化的な活動や口頭伝承を記録したビデオに加えて、今年度から国内外で行われるオセアニアに関する講演や研究発表などをビデオで記録し、ユーチューブ・チャンネルで公開し始めた（現在8本）。またさまざまな機関で保管されているビデオのユーチューブ・チャンネルでの公開を働きかけている。ユーチューブで公開されているビデオは、今年度末で105本（昨年度末42本）に増えた。こうした公開するビデオの増加にともない、今年度は65,077回（昨年度41,213回）、1日平均178.3回（昨年度112.9回）の視聴があった。特に平成29年より過去に記録した語りのビデオをまとめて公開し始めた後（現在、引き続きアップロード中）、著しく増加している（図5）。語りの動画を含めこのチャンネルで公開している動画は、ミクロネシア連邦に関連するものばかりであるため、視聴者もミクロネシア人が中心になっていると思われ、米国領78.5%・ミクロネシア連邦12%で全体90.5%を占める。

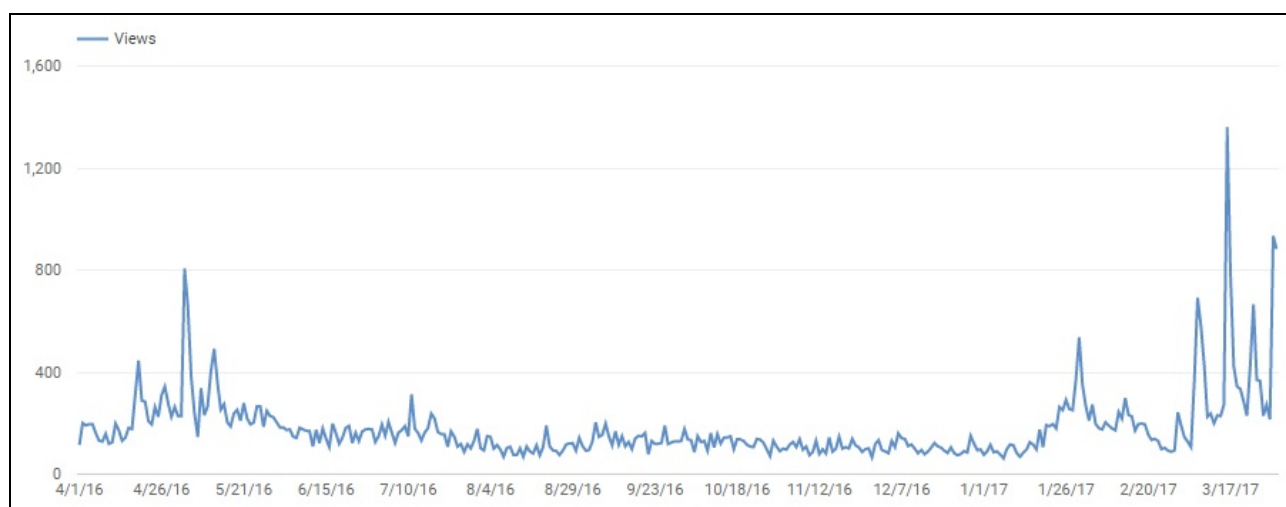


図5. 今年度のNPOユーチューブ・チャンネルの日別視聴回数

#### ◆ポーンペイ州の社会科教材の作成

今年度は、昨年度に作成した、ポーンペイ州教育局と協働して社会科教材を作成するプロジェクトの概要を書いたプロポーザルをわかりやすいように書き直したが、他のプロジェクトに時間を費やし、このプロジェクトを進めることができなかった。来年度は、詳細なプロポーザルを完成させ、それをもとに同局のカリキュラム担当者と伝統文化教育（ポーンペイ・スタディーズ）担当のスタッフと話し合いを行い、このプロジェクトの計画を具体化させ、開始させる予定である。

#### ◆日本国内におけるオセアニアの伝統文化、歴史、文化遺産に関する教育

日本人を対象にしてオセアニアの文化や歴史に対する理解を深めるために、NPOのホームページを開設を準備中である（図6）。ホームページを製作するために必要な情報や材料など準備は整いつつあるが、製作を開始することができなかった。来年度は製作を行う予定である。



図 6. ホームページのデザイン案

#### ◆ナンマトル遺跡の写真展を共同主催

ナンマトル遺跡が世界遺産に登録された（後述）のを記念して、当 NPO は、関西外国語大学と共同で、平成 29 年に奈良（1 月 31 日～2 月 5 日）と東京（2 月 7 日～2 月 12 日）で、ナンマトル遺跡の写真展「写真展 世界遺産ナンマトル—太平洋の巨石文明の痕跡を求めて—」を主催しました（協力：東京文化財研究所）。奈良会場では 100 人、東京会場では 150 人の来場者があった（図 7）。この写真展についての記事は、1 月 29 日 (<https://doc.co/zwHdmj>) と 2 月 3 日 (<https://doc.co/4D7qot>) に、読売新聞に掲載して頂いた。



図 7. 東京会場の様子

## ②オセアニアの関連機関・団体への技術協力事業

### ◆ヤップ島石貨遺跡の世界遺産登録への技術支援

平成 22 年、ミクロネシア連邦ヤップ州歴史保護局は、パラオ歴史保護局とともにヤップ島の石貨遺跡とパラオ島の石貨採掘遺跡を世界遺産へ登録するため推薦書を提出したが、翌年の世界遺産委員会で不登録となった。その後、両歴史保護局は再申請に向けて準備を開始し、これを支援するために平成 27 年 5 月に長岡代表理事がヤップ州歴史保護局スタッフに対して遺跡の調査及び記録データベース作成・管理に関するトレーニングを受託事業として実施した。このプロジェクトの報告書を作成し、同局へ提出した。

収支実績：収益158,476円、費用96,170円

### ◆ポーンペイ島ナンマドール遺跡の世界遺産登録への技術支援

長岡代表理事は、平成 24 年より国際協力チームのメンバーとしてミクロネシア連邦歴史保護局によるナンマドール遺跡の世界遺産登録事業に参加し、平成 27 年 1 月にユネスコ世界遺産センターに推薦書を提出した。その後も継続してユネスコやその諮問機関、国際記念物遺跡会議（イコモス）から同局への情報照会に対する返答などをサポートしている。平成 28 年 7 月にユネスコ世界遺産委員会において世界遺産と危機遺産に登録が決定した。その後、外務省の外郭団体である一般財団法人国際協力推進協会が、遺跡の保存を支援することになり、当 NPO としてもして協力を行う予定である。

### ◆ポーンペイ島ソケース・マウンテンの公園化に対する技術協力

平成 27 年 3 月、長岡代表理事は、ミクロネシア連邦議会デイビット・パヌエロ議員より同議員への割り当ての連邦議会の公共事業費を使って、多くの遺跡が存在するソケース・マウンテンを歴史・リクリエーション公園として整備する計画を作成してほしいとの依頼を受けた。今年度、長岡は、この事業に関わる連邦政府・州政府関係者のミーティングに参加し、整備計画・マネジメントプラン・ツアーガイド・マニュアルの作成を担当することになった。

長岡は、この事業を行うに際し、随時、齋藤弘之副代表理事と情報交換を行っている。9 月には公園に対する住民などの意識を調査するため、オンラインのアンケートを実施し、80 人から回答を得られた。ポーンペイ滞在中は、遺跡の調査や関係部署との意見交換を行った。

### ◆その他の技術協力

モキッロ環礁の老人からの要請により、上記のパヌエロ議員の公共事業費を使って、数名の老人しか知らない帆走カヌーの建造技術を若者に継承するための講習会を開催することになった。長岡代表理事は、青年海外協力隊員として同様のプロジェクトに関わった経験から、同議員の要請を受け、この講習会に協力することになり、モキッロ人のコミュニティー・ミーティングに数回参加し、詳細な計画の作成に協力した。

また昨年度、長岡は、ポーンペイの NGO であるコウシャップ・ロスティのメンバーの要請を受け、彼らが計画している伝統文化を記録・出版する事業を支援することになり、ニュージーランド政府の太平洋開発保全基金への助成金の申請書作成に協力した。その申請が採択され、長岡はポーンペイ滞在中、有識者によるミーティングに参加した。

## ③オセアニアの観光及び日本との交流・友好を促進する事業

### ◆ポーンペイ島でのカルチュラル・ツーリズムの促進

この事業に関しては、今年度も情報収集・交換にとどまった。今後、日本の若者を対象としたポーンペイ島でのカルチュラル・ツアーの企画について検討する必要がある。

#### ④その他目的を達成するために必要な事業

今年度は実施しなかった。

#### ⑤広報活動

##### ◆ニューズレター

広報活動の一環として、今年度の活動について一般向けに報告する、英語と日本語のニューズレター『パシルネ・ニューズレター』を現在、作成中である。

##### ◆その他の広報活動

NPOの活動についての認知を広げるために、前述のナンマトル遺跡の写真展開催に関する平成29年1月29日の読売新聞の記事にNPOの活動についても取り上げていただいた。サイパンの新聞 *Marianas Variety* の太平洋・地域のニュース欄の毎月の「ミクロネシアのアイコン」という記事で長岡代表理事が、毎月選ばれた（記事がなかった4月・6月を除く）。

また今年度、ポーンペイ州での口頭伝承を記録するプロジェクトに対して助成をいただいているKDDI財団のブログ (<http://blog.kddi-foundation.or.jp/>) に長岡がNPO活動についての記事を4回寄稿したのに加え、財団の機関誌「KDDI Foundation Vol. 8」（平成29年4月発行予定）にこのプロジェクトについての記事を寄稿した。

#### ⑥その他の活動

##### ◆出版

今年度は、長岡代表理事が、ナンマトル遺跡に関する文章を4本発表している。まず片岡修・石村智両氏と共著で論文「ミクロネシアの巨石遺跡ナンマトルの研究の現状と世界遺産への登録について」を学術雑誌『古代文化』に投稿し、日本語と英語で「考古学と口頭伝承から見たナンマトル遺跡」を参加していた科研費の報告書に寄稿した (<https://doc.co/uqCD5p>)。また長岡が顧問を務めるNPO法人ミクロネシア振興協会の会報に一般向けの文章「新世界遺産・ナンマトル遺跡」を2回連載した（合計4回の予定） (<https://doc.co/uMSKUc> と <https://doc.co/fJ2ieK>)。

開発人類学を専門とする関根久雄理事（筑波大学 教授）は、「なぜ持続しないのかーソロモン諸島における有機農業普及活動の事例からー」という論文を『グローバル支援の人類学ー変貌するNGO・市民活動の現場からー』（昭和堂、平成29年）に寄稿した。

##### ◆その他

長岡代表理事が、平成28年11月20日に放映されたTBSの『世界遺産』のナンマトル遺跡の特集を関西外大の片岡修教授と監修を務めた。

12月には、ユネスコの関連機関であるアジア・太平洋無形文化遺産国際情報ネットワークセンター（ICHCAP）が、無形文化遺産の価値についての人々の意識向上のために、「私達の日常生活の中の無形文化遺産」というテーマで主催した、2016年アジア・太平洋無形文化遺産マルチメディア・コンテストで、当NPOが製作したビデオ「ミクロネシア、シャプアーフィック環礁のお祭りの日」が優秀賞（第3位）を獲得した。

#### (2) 特定非営利活動に掛かる事業

##### ①物品販売事業

今年度は実施しなかった。

## ②コンサルタント事業

今年度は実施しなかった。

### 3. 活動実績報告

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
オセアニアの伝統文化・歴史・文化遺産に関する記録・調査・教育事業	ポーンペイ州での口承伝承の記録する	11月～3月	ポーンペイ	1人	2,200人	1,742
	インターネットを利用した伝統文化・歴史に関する情報の発信する	通年	日本	3人	不特定多数	0
	ポーンペイ州の社会科教材を作成する	通年	日本・ポーンペイ	1人	30,000人	0
	日本国内におけるオセアニアの伝統文化、歴史、文化遺産に関する教育を行う	通年	日本	3人	不特定多数	0
オセアニアの関連機関・団体への技術協力事業	ヤップ島石貨遺跡の世界遺産登録への技術支援を行う	4月～9月	日本	1人	11,200人	96
	ポーンペイ島ナンマドール遺跡の世界遺産登録への技術支援を行う	通年	日本	1人	30,000人	0
	ポーンペイ島ソケース・マウンテンの公園化に対する技術協力	通年	日本・ポーンペイ	2人	30,000人	0
オセアニアの観光及び日本との交流・友好を促進する事業	ポーンペイ島でのカルチュラル・ツーリズムを促進する	通年	日本・ポーンペイ	2人	30,000人	0
その他目的を達成するために必要な事業	随時目的達成のために行うその他の業務	事業実施せず				0

#### (2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
物品販売事業	現地の特産品などの販売	事業実施せず			0
コンサルタント事業	その他のコンサルタント業務	事業実施せず			0

#### 4. 財政

今年度の収入は、年会費の 27 万円（昨年度 15 万円）、事業収入の 15 万円（33 万円）、民間助成金（KDDI 財団）の 71 万円を中心として 114 万円（54 万円）であった。それに対し、今年度の支出は、事業費の 182 万円（108 万円）（それぞれの事業の収支の内訳は 3. 活動実績報告を参照）と管理費の 2 万円（5 万円）で、合計 185 万円（113 万円）であった。民間助成金に加え、年会費の納入率も 85%（66%）と上がっているが、現地政府との契約で行う予定であった事業が相手政府の事情で遅れていることから、184 万円（130 万円）という大幅な赤字となった（「活動計算書」「貸借対照表」「財産目録」「注記」参照）。公的な助成を得づらく、収益事業の展開が難しい分野での活動であるため、会費納入の促進、新規会員の開拓、広報活動の強化、助成・受託事業の獲得、収益事業の模索などをはかり、財政の安定化に一層の努力が必要である。

ナンマトル遺跡の遺産管理と観光開発の仕組みの構築を行うプロジェクトのために応募した、JICA の草の根技術協力事業（草の根協力支援型）は、不採用であった。またポーンペイ州の口頭伝承記録事業に対して州歴史保護局へ助成金の申請書を提出したが、まだ採択・不採択は決定していない。

#### 5. 組織運営

まだ創成期の少人数の NPO であり、メンバーも各地に散らばっているため、主に SNS チャットワークを通して話し合いや情報の共有を随時行っているほか、理事会には理事以外のメンバー全員もオブザーバーとして参加できるようにし、意識の共有をはかっている。

今年度の決算書類は、当 NPO のプロボノの室谷裕貴氏が作成した。監事による業務・会計監査の結果、NPO は適正に運営されていると認められた。今後監事から提出された意見書で挙げられた帳簿や会員の管理などに関する提言に基づいて、組織運営の確立を目指す予定である。

#### 6. 役員・顧問

設立以来の役員・顧問は、任期 2 年が終わり、以下の通り、新しい役員・顧問が選任された：

##### ◆役員

代表理事：長岡拓也（オークランド大学名誉研究員）  
副代表理事：齋藤弘之（安城市教育委員会文化振興課）  
理事：関根久雄（筑波大学教授）  
監事：井上郁子（団体職員）

##### ◆顧問

川嶋正和（NPO 法人ミクロネシア振興協会事務局長）  
小林泉（大阪学院大学教授）  
白川千尋（大阪大学准教授）  
須藤健一（国立民族学博物館館長）  
竹川大介（北九州市立大学教授）

#### 7. 会員・プロボノ

事業年度末で正会員は 20 名（昨年度末 17 名）、賛助会員は 17 名（15 名）、法人会員は 2 法人（2 法人）である。個人の会員数が昨年度末より微増している。正会員のうち 13 名が SNS チャットワークでの話し合いに参加している。また 5 名のプロボノの方に会計・デザイン・英文校正で協力していただいている。

会員・プロボノの皆さまには、この場を借りまして、感謝の意を表したい。

◆正会員（以下、あいうえお順・敬称略・氏名を公表することに同意いただいた方のみ）

井上郁子、磯崎淑子、井上雄二、川嶋正和、小西潤子、小林泉、小林房代、齋藤弘之、白川千尋、須



藤健一、関根久雄、竹川大介、長岡拓也、長島怜央、Ben Schultz、宮澤京子、門田修、Yumi Schultz

◆賛助会員

巖淵光洋、上木原圭、大野志穂、大野康雄、川部浩子、小金丸梅夫、小西哲也、白川博章、白川由里、武田貴子、豊田悟、西村岳洋、古澤拓郎、益田兼房、渡辺淑子

◆法人会員

株式会社森覚貫誠堂 ([www.morikaku.org/](http://www.morikaku.org/), [www.facebook.com/morikakukanseidou](https://www.facebook.com/morikakukanseidou))

ジェイピーエムズ株式会社 (<http://www.jpms1125.com/>, [www.facebook.com/jpms1125/](https://www.facebook.com/jpms1125/))

◆プロボノ

室谷裕貴 (会計)、Davidson Syne (デザイン)、Garry Scott、David Vega、Josh Levy (英文校正)

## 8. 助成事業によるパートナー

団体・機関名	事業名・事業内容
ヤップ州歴史保護局 平成 27 年 2 月～平成 28 年 9 月	ヤップ島石貨遺跡の世界遺産登録へ向けてヤップ州歴史保護局スタッフへ対して遺跡の調査及び記録データベース作成・管理に関するトレーニングの実施
KDDI 財団 平成 28 年 2 月～平成 29 年 6 月	ポーンペイ州での口頭伝承の記録し、インターネットでの公開する事業の実施

## 9. 総会・理事会

◆平成 28 年 6 月 11 日 第 4 回理事会

- (1) 第 1 号議案 代表理事による前年度のミクロネシアでの活動に関する件
- (2) 第 2 号議案 平成 28 年度の事業計画書に関する件
- (3) 第 3 号議案 平成 28 年度の活動予算書に関する件
- (4) 第 4 号議案 長期借入金に関する件
- (5) 第 5 号議案 会費の額に関する件
- (6) 第 6 号議案 顧問の選任又は解任に関する件
- (7) 第 7 号議案 今後の運営に関する件
- (8) 第 8 号議案 その他

◆平成 28 年 6 月 25 日 第 2 回通常総会

- (1) 第 1 号議案 平成 27 年度の事業報告に関する件
- (2) 第 2 号議案 平成 27 年度の活動決算に関する件
- (3) 第 3 号議案 平成 28 年度の事業計画の報告に関する件
- (4) 第 4 号議案 平成 28 年度の活動予算の報告に関する件
- (5) 第 5 号議案 役員の選任に関する件
- (6) 第 6 号議案 顧問の選任又は解任の報告に関する件
- (7) 第 7 号議案 定款の変更に関する件 1 (会費)
- (8) 第 8 号議案 定款の変更に関する件 2 (理事会議事録署名人の人数)
- (9) 第 9 号議案 その他